

種文学賞九月

小学二～三年生の部

「夏休みの前、夏休みの後」 最優秀作品（作者 小学二年生 女子）

「きょうしつのおひっこし」

わたしのいつている」※作者在籍小学校」はことし、七十しゅう年きねんできょうしつのはしょがか
わったり、きょうしつの中がかわたりしました。わたしたち雪ぐみは、もともと一年にじぐみだつた
ところにいどうしました。わたしたちのもいたきょうしつは、ずこつしつになりました。二年月ぐみ
と星ぐみは、そのままでした。二年にじぐみもばしょがかわって、もともとずこつしつのところにかわ
りました。

では、わたしたちが一年にじぐみのところにいどうしたなら、一年にじぐみの人たちはいったいどこへ
行ってしまったのでしょうか。会議室にいどうしました。一年生は、月、星、雪ぐみは、もともと一かいだ
つたので、いどうせずにすみました。

三年生から上の学年はどうなつたかはしりません。

つづいては、きょうしつの中のことをせつめいします。きょうしつの中にもかわつたところがあります。
それは、ロッカーです。いままでは、アルミでできているロッカーでしたが、つぎのロッカーは木でできてい
るロッカーなので、木のぬくもりをかんじます。でも、一つふべんなところがあります。な、なんとロッ
カーのとびらが無いという事です。前のロッカーにはとびらがあつたのに…。

つぎは、だれがいつきょうしつのようなをしたかといふことです。先生によると、こつじをする人た
ちが、しゅうぎょうしきがおわって、わたしたちがかえつた後にこつじとさぎょうしはじめたそうです。
しかも、夏休みもほとんど毎日さぎょうをしてきていたそうです。かんしゃします。

べんりなところは、ロッカーの一ばん下にしゅうのうボックスができたところです。しかも、ふゆばにきてくるコート、ジャケットをかけるところまでできていました。きょうしつに入ったらもう、ちがう学校にきた気分になりました。ほかに思ったことは、きれいになったきょうしつをだいにじにつかいたいという事です。だいに、きれいにつかうには、きちんとそうじをして、あべれたり、きょうしつのもをこわしたりしないでいいものをつかたりすればいいと思いました。

これからも、このきょうしつをつかわせていただくので、いいにきょうしつをつかいたいです。

※ 文中に記載の学校名は伏せています。

小学四く六年生の部

「夏休みの宿題に対する感想文」 最優秀作品（作者 小学四年生 女子）

「夏休みの宿題に対する感想文」

みなさんは、夏休みの宿題のことをどう思いますか。「役に立つからもうやりたい」という人もいます。遊びたいから、こんなやりたくない！」と、文句を言う人もいます。ちなみに、私は、「宿題はいらぬ派」です。

私は今年、夏休みの宿題のせいで先生に二度も怒られました。そのことを話したいと思っています。始業式の日、宿題を先生の机に出そうと思いましたが、宿題を入れておくファイルの中を見ると、一つ宿題を忘れてることに気づきました。しかも、それは六枚セットで、プリントも大きく、入ってなければ誰でも気づくはずのものなのです。先生に怒られることは分かっていましたが、わざと、先生が怒るぎりぎりまで、忘れたことに気づいていないふりをしました。私は、しばらく友達と遊んでいました。そのうち、私が一つ宿題を出していないことが先生に分かってしまいました。急に、

「※作者名」さん、集合！」

と大きな声で言われたので、宿題のことだとすぐに分かり、わざとすにひっかかるまねをして、先生の机に行きました。

「※作者名」さん、〇〇の宿題はどこに出しましたか。」

私は数秒、首を少しだけひねってから、

「忘れしました。」

と言いました。

「忘れたら、どうするんですか。」

「明日もってきます。」

と言って、自分の席に戻りました。大しておこられなくて良かったとほっとしました。

次の日、また忘れたことに気づいたとき、家になかったので明日もってくるというそをついてごまかしました。

その次の日、教室に入って、ずっと忘れていた宿題があるかどうか、確認をしました。思った通り入っていたので、教卓に出しました。それなのに、先生に

「※作者名」さん、ダメでしょ。」

とおこられてしまいました。怒られた理由は分かりません。せっかく宿題を出したのに、怒るなんて、短気な先生だなど、私の方が怒ってしまいました。

宿題は、塾の復習よりもレベルが低いです。それを、学校でも何回もくりかえしてくるので、私はあきてきます。さらに、夏休みの宿題は、同じ問題を出すだけなので、もっとあきます。だから、気がゆるんで、今回のように、宿題を忘れてしまいます。こんなレベルの低すぎる宿題はいらないと思います。

※ 文中に記載の作者名は伏せています。

中高生の部

「エスカレーター改革案」 最優秀作品（作者 中学二年生 女子）

「エスカレーター改革案」

最近、エスカレーターを歩いて上り下りするのは良くないと話題になっている。エスカレーターの輸送効率を考えると左右両側立ち止まったほうが多くの人を移動させられるという話もある。また、片側だけを歩かれると変に負荷がかかりエスカレーターが故障しやすくなるとも言われている。だから、今回はどのようにしたら多くの人がエスカレーターを歩かなくなるかを考えたい。

結論を先に述べれば、エスカレーターを歩かずに乗っていた人にポイントが付与され、沢山貯めると景品がもらえるという案を私は考えた。具体的に言うと、エスカレーターの乗り口と降り口にイコカ等のICカードを読み取る機械を設置する。そして、乗り降りするときに利用者がICカードをタッチすると、実際にその人が乗っていた時間が、計算上の立ち止まって乗った場合に一致するチェックされ、一致していたらポイントが付与されていく。そして、そのポイントを貯めると商品券や文房具等と交換できるようにするシステムだ。このシステムによって皆がエスカレーターを歩かずに立ち止まっていた場合、歩きにくくなると思う。それによって後から乗る人も立ち止まろうと思わせることができる。しかも、この仕組みは、利用者全員を強制的に立ち止まらせているわけではない。立ち止まった人は少し得をした気分になる。要するに、利用者を嫌な気分にはさせないのだ。

しかし、問題点もいくつかある。まず、磁気タイプの定期券を使っている人はこのシステムを使うことができない。ただし、確かにそうだが、磁気カードを使っている人達にもこの仕組みの導入によってICカードの利用を促すこともできるのではないだろうか。次に、ICカードを読み取る機械は、よくある二列のエスカレーターで乗り口と降り口に二台ずつ必要なため、四台も必要とする。そのため、沢山お金がかかると思われる。しかし、エスカレーターで皆が立ち止まればエスカレーター自体が

故障しにくくなるはずなので費用を削減できるのではないか。そう考えると、ICカードを読み取る機械の設置にかかる費用の負担が小さく感じられるはずだ。また、ICカードにはイコカやピタパなど沢山あるため、どんなICカードでも対応できるようにしておく必要があるという課題もあるが、こういった点が解決できたら、このシステムを沢山の人が使ってくれるのではないかと思う。

以上、エスカレーターを歩かなかった人にポイントが付与されるという考えを提案した。この案を実行した時に、エスカレーターに乗る人全員が立ち止まってくれるようになってほしい。